

関東・甲信・静支部のうごき

1. 支部役員会

8月23日(月)、千葉市(千葉県環境研究センター水質地質部会議室)において、支部役員6名が出席して、支部長表彰被表彰者の選考等を行った。

2. 支部総会

9月2日(木)～3日(金)、浜松市(ウェルサンピア浜松)において、15機関25名の出席者により開催した。会議の概要は次のとおりである。

(1) 議決事項

- ・平成15年度、16年度の運営及び事業について

(2) 報告事項

- ・平成17年度の役員及び総会等の開催地について
- ・全国環境研協議会会長表彰、会長感謝状候補者の支部推薦について
- ・支部長表彰者について

(3) 専門部会事業報告

大気、水質、騒音振動の各専門部会長及び水質専門部会東京湾連絡会庶務機関から事業報告があった。

(4) 支部長表彰式

支部として次の5氏を表彰した。

小野雄策氏 (埼玉県環境科学国際センター)

清水源治氏 (山梨県衛生公害研究所)

笹井春雄氏 (長野県環境保全研究所)

中島二夫氏 (静岡県環境衛生科学研究所)

樋口文夫氏 (横浜市環境科学研究所)

なお、平成17年度の支部総会は千葉県で開催する予定である。

3. 大気専門部会

9月9日(木)～10日(金)東京都庁第二本庁舎 第31特別会議室において、15機関26名の出席者により、研究発表及び講演会を行った。

主な内容は以下のとおりである。

(1) 研究発表

①物流と大気汚染

(千葉県環境研究センター)

②川崎市における粒径別粒子状物質の成分組成

(川崎市公害研究所)

③浜松市における有害大気汚染物質の汚染状況

(浜松市保健環境研究所)

④VOCsの大気中濃度シミュレーション及び実測値との比較

(栃木県保健環境センター)

⑤神奈川県における光化学オキシダント濃度の経年変化と変動要因

(神奈川県環境科学センター)

⑥臭気の嗅覚測定法における精度および確度に関する検討

(群馬県衛生環境研究所)

⑦横浜市内における環境大気中ダイオキシン類濃度について

(横浜市環境科学研究所)

⑧千葉市におけるダイオキシン類の測定結果について

(千葉市環境保健研究所)

⑨長野県におけるヒートアイランドの研究と環境学習

(長野県環境保全研究所)

⑩東京都区部におけるヒートアイランドの実態と対策について

(東京都環境科学研究所)

⑪埼玉県における二酸化炭素濃度の観測について

(埼玉県環境科学国際センター)

(2) 講演会

「VOC規制の動向」

(環境省環境管理局大気環境課長 関 荘一郎)

(3) 来年度専門部会長について

来年度は静岡県が担当することを確認した。

■ 支部 だ よ り ■	
---------------------	--

4. 水質専門部会

9月16日(木)～17日(金)甲府市(ザ・ホテル紫玉苑)において、下記研究発表及びサッポロワイン(株)勝沼ワイナリーの水処理・廃棄物再資源化施設の視察を行った。

15機関から23名の出席者があった。

○研究報告(13題)

(1) 化学物質

- ・大間々扇状地における地下水汚染機構解明調査

(群馬県衛生環境研究所)

- ・東京都の運河におけるダイオキシン類の汚染

(東京都環境科学研究所)

- ・最終処分場から検出されるビスフェノールについて

(神奈川県環境科学センター)

(2) 水質汚濁

- ・牛久沼小流域における土地利用形態別原単算定の新たな試み

(茨城県公害技術センター)

- ・湯の湖の着色について

(栃木県保健環境センター)

- ・水田農薬の環境中における挙動 — 農薬残に係るモニタリング調査 —

(埼玉県環境科学国際センター)

- ・野尻湖水質予測モデルによる水質計算

(長野県環境保全研究所)

- ・旧静岡市内における河川の水質汚濁の変動

(静岡県衛生試験所)

- ・佐鳴湖における水質汚濁特性について

(浜松市保健環境研究所)

(3) 生態

- ・都市における川の生きものの季節性はどうか

(横浜市環境科学研究所)

(4) その他

- ・調査研究課題の事業評価に伴う評価方法の検討

(川崎市公害研究所)

- ・快適な水辺環境の創造を目指して — 生活排水汚濁水路浄化施設 —

(千葉市環境保健研究所)

- ・県内河川水および底質の化学物質汚染実態調査

(山梨県衛生公害研究所)

5. 水質専門部会東京湾連絡会

10月29日、千葉県船橋市において7機関11名の出席者により開催した。サッポロビール千葉工場での視察を行った後、工場内の会議室において同工場における環境保全活動の事例報告を聞いた。

第二部の定例会議では、各機関の平成16年度調査研究計画及び途中経過について報告及び質疑を行った。

また、次期(平成17、18年度)幹事を川崎市公害研究所にお願いすることが了承された。

会議終了後には工場内のビール試飲コーナーで、ビールに関するさまざまなレクチャーを受けながら、できたてビールを賞味し、会員同士の懇親を深めた。

九州支部のうごき

1. 第30回九州衛生環境技術協議会

本会は、地方衛生研究所全国協議会及び全国環境研協議会の各九州支部が共催するものであり、職員の学識技術の向上、及び業務に必要な情報交換を行う。平成16年度は熊本県において開催した。

- ・期 日：平成16年10月7日、8日

- ・場 所：熊本県熊本市 熊本テルサ

当日は、地方衛生研究所全国協議会及び全国環境研協議会九州支部の13機関から134名が出席し、分科会討論、特別講演、全体会議を行った。会議概要は次のとおりである。

	■ 支 部 だ よ り ■
--	----------------------

(1)分科会

大気・水質・生物・衛生化学・細菌・ウイルス・情報処理の7分科会に分かれ、調査研究・事例発表、情報交換(照会事項)、討議が活発に行われた。なお、環境関係の事例研究発表は次のとおり。

大気分科会

- ・鹿児島県における酸性降下物
- ・平成14年度九州・沖縄地区酸性雨調査結果
- ・佐賀県における大気中重金属測定結果について
- ・蛍光検出器付高速液体クロマトグラフィーによる大気中多環芳香族の同時分析の検討
- ・硫酸ピッチ放置事件における硫黄酸化物測定事例

水質分科会

- ・石川市嘉手苅地区地下水水銀汚染原因究明調査
- ・福岡市における硫酸ピッチ不法投棄事例
- ・日本におけるギンプナ中のダイオキシン類蓄積量調査
- ・ガソリンによる地下水汚染地域へのMNAの適用
- ・植物を用いた水質浄化について

- ・酸化チタンを用いた水中のカビ臭物質の分解

生物分科会

- ・イボニシのインポセックス現象に対する有機スズ化合物の影響
- ・カゲロウの分布状況から見た福岡県下の河川
- ・港湾環境における生態学的環境修復技術について(その2)

情報処理分科会

- ・地球観測衛星データの地下水流動解析への応用

(2)特別講演

演題：『新興・再興感染症について』

講師：(財)国際保健医療交流センター
(ACIH)

理事長 蟻田 功

(3)全体会議

平成15年度会務報告、分科会報告及び次回分科会討議報告が行われた。

次回は、福岡県で開催する。